

# 一般社団法人LOCAL 第6回社員総会 記念講演

日本UNIXユーザ会  
法林浩之

[hourin@suplex.gr.jp](mailto:hourin@suplex.gr.jp)

14年ぶり

2回目<sup>の</sup>

招待講演

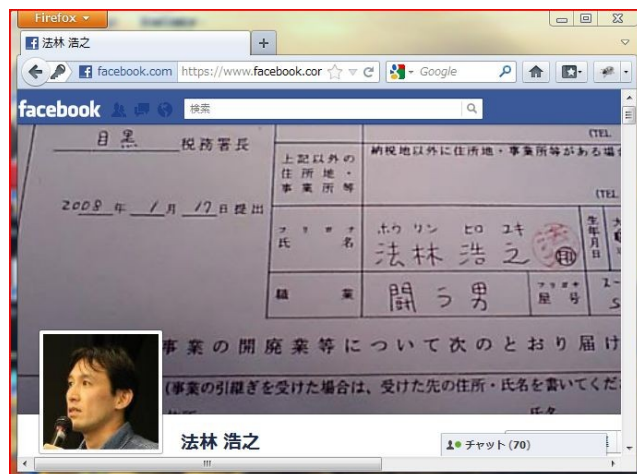
# 自己紹介

フリーランスエンジニア

日本UNIXユーザ会(jus)幹事

ITコミュニティ歴もうすぐ25年

# 私の動向は各種ソーシャルメディアで



すべて「**法林浩之**」で検索

# 日本UNIXユーザ会



日本におけるITコミュニティの草分け  
設立31周年

# Monthly News from jus



日本UNIXユーザ会の活動報告を  
Software Designで連載中

# 講演内容

20年以上にわたり、  
数々のIT系コミュニティや  
イベントの運営に携わってきました。

その中で学んできたことや  
心がけていることをお話しします。

そして、コミュニティを  
継続していくために必要なことは  
何なのかをお伝えします。

法林浩之的

ITコミュニティ

運営論



これまでの歩みを紹介

その中で気づいたことや  
心がけていることを話す

あしあと



大阪大学 基礎工学部 情報工学科  
(現:情報科学科)にて  
**UNIXとインターネット**に出会う  
(1988年)

まだインターネットでなく**JUNET**

JUNETにつながっている  
組織は少数(当方で約200)

UNIXが使える学科も少数

今にして思えば**恵まれていた**



ネットニュースの常連投稿者になる  
自身初のSNS利用(?)



さだまさしメーリングリスト(1989-)  
自身初のIT(を使った)コミュニティ運営





UNIX Fairのスタッフを務める(1989-1991)  
自身初のITイベントスタッフ  
jusの活動に参加

就職で東京へ行くと  
同時にjus幹事に(1992年)

自身初のITコミュニティ運営

先輩幹事たちと一緒に  
勉強会や展示会などを運営









これを契機に  
IT系イベントの  
運営と司会を  
数多く担当するように

# Internet Week (1997-)



インターネットの管理・運用系  
エンジニア向けのカンファレンス  
11/18-21(火-金) 富士ソフトアキバプラザ

# 関西オープンフォーラム(2002-)



関西のコミュニティ/企業による展示会  
ステージと会場内ツアーを担当  
11/7-8(金土) 大阪南港ATC

# Lightweight Languageイベント (2003-)



プログラマー向けイベント  
運営の**まとめ役**を担当  
8/23(土) 日本科学未来館ほか



# jus研究会JAPAN TOUR (2007-)



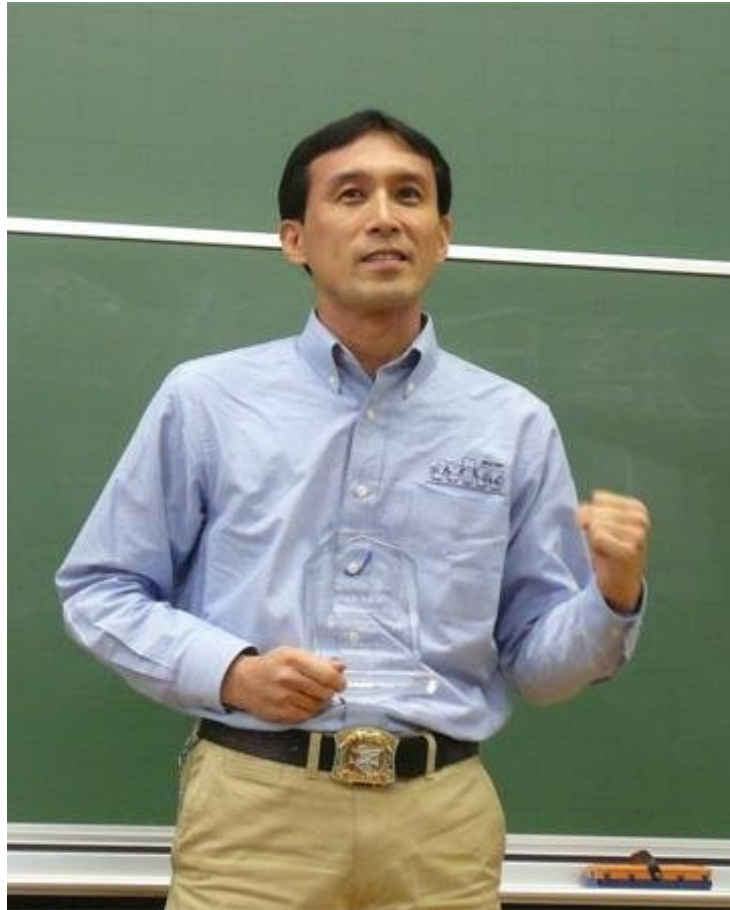
OSCなどの場を借りて  
全国各地で発表者と対戦  
山下達郎並みに全作業を担当

# TechLION (2011-)



ライブハウスで飲みながら聞いてもらう  
ITエンジニア向けトークライブ  
9/25(木) 六本木スーパーデラックス





日本OSS  
貢献者賞(2012)



楽天テクノロジー  
アワード(2013)

活動の中で

気づいたことや

心がけていること

他団体との

積極的な交流



jusの活動の大半は  
他団体との**合同イベント**

UNIXの流行(1980年代)

インターネットの流行(1990年前後)

オープンソースの流行(2000年前後)

Webプログラミングの流行  
(2000年代)

UNIXの情報交換の場が欲しい!

→それjusで

インターネットの情報交換(以下同文)

→それjusで

オープンソースの(以下同文)

→それjusで

Webプログラミングの(以下同文)

→それjusで

コミュニティは  
作りやすくなったが  
全体的に活動が  
内部にこもる傾向がある

アウェイよりホームの方が楽？

ツールごとにコミュニティがあるから？

人はアウエイで

成長する



内にこもっていると視野が狭まる  
違う世界観/価値観と触れることで  
見聞を広めてほしい

jusではLLやKOFなど

LOCALの場合は  
OSCなどの地元開催

名前は

気にしない

団体名に技術用語があると  
それを理由に活動内容を  
制限してしまう人が多いが  
そういうのを

気にしてはいけない

jusの場合

何らかの形で

UNIX的なものと

関連があれば活動対象

Japan **UNIX** Society

jus

日本UNIXユーザ会

Japan **Users'** Society

jus

日本ユーザ会

# 石鍋亭



石鍋の  
ジンギスカンも  
あるが  
みんなの写真は  
ニラタワーばかり

でも問題には  
なっていない

名前を気にするより

**実績**を気にしよう



定義を

追求しない

エンジニアは定義したがる

整然としたルールに従って  
物事を進められる方が  
気持ちいいから(?)

しかし

コミュニティ活動においては

整然としたルールでは

説明できない事象が多い

コミュニティ活動は  
PCではなく人間が相手

人間は理屈通りには  
動かない

定義を追求して

苦勞した例

# 関西オープンフォーラム



関西オープンソース+フリーウェア  
(2002-2003)

関西オープンソース+関西コミュニティ大決戦  
(2004-2012)

関西オープンフォーラム(2013-)

最初からOSS以外の団体も  
参加してもらうことを想定して  
「関西オープンソース+フリーウェア」

しかしOSSと似て非なるものを  
ごっちゃにするとは何事だと  
外部から批判され  
対象を厳密に設定しようとして泥沼に

2004年から  
運営団体「関西オープンフォーラム」  
イベント名「関西オープンソース  
＋関西コミュニティ大決戦」

イベント名が長すぎて噛むのでw  
2013年から  
「関西オープンフォーラム」



現在ではOSSに限らず  
無数のコミュニティが活動し  
KOFにもOSCにも集まっている

KOFが目指したことは  
正しかったと  
胸を張って言いたい

定義を追求

しななかった例

# Lightweight Languageイベント



プログラマー向けイベント  
運営のまとめ役を担当

「LLとは何か」を  
細かく定義しない

Lightweight Languageとは

より少ない「**脳力**」で

プログラミングできる言語

(まつもとゆきひろ談)

「より少ない」は  
相対的な概念

より良いプログラミング  
を目指す活動と考えれば  
言語仕様はいつでもよい

もっといいのは  
団体名/イベント名に  
技術用語を使わない

LOCAL

WIDEプロジェクト

Future Sync

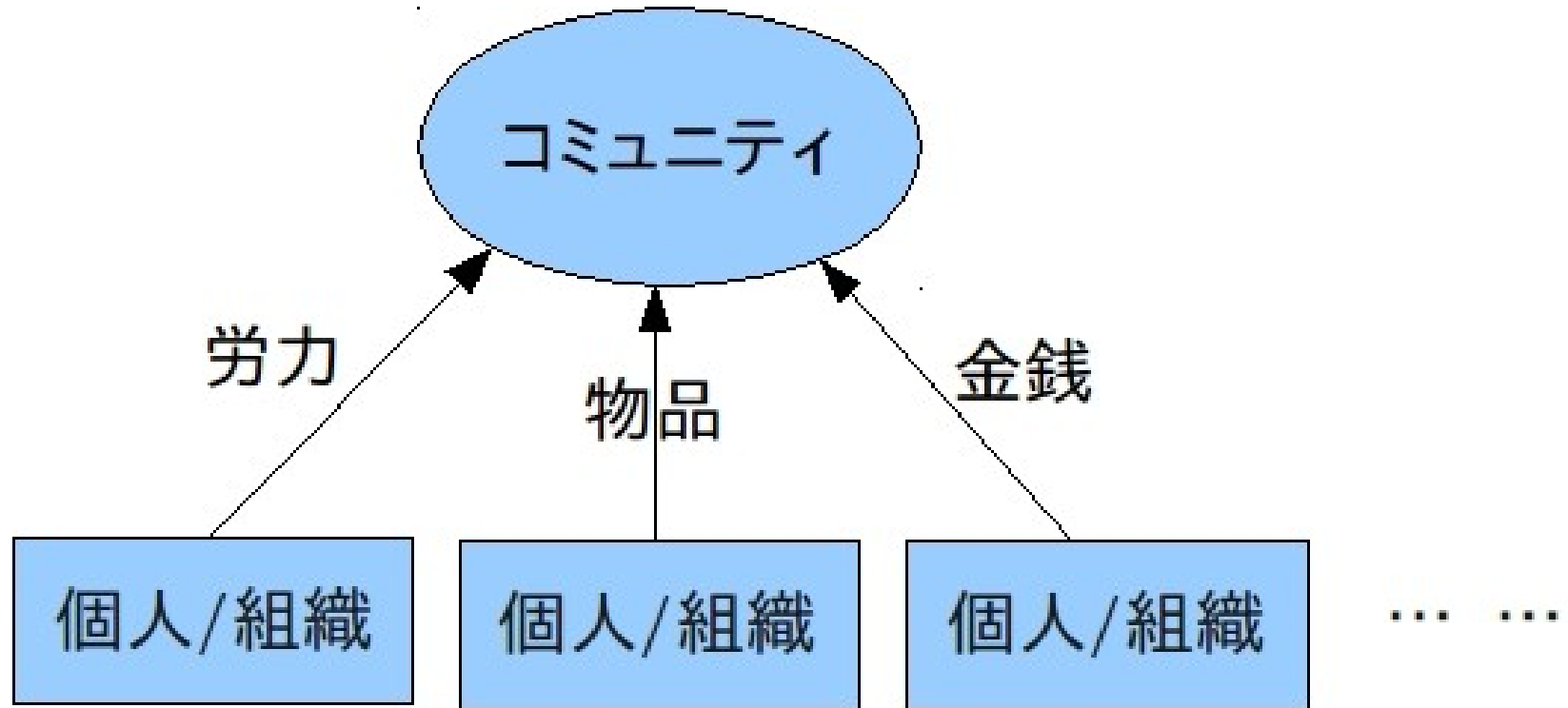
まっちゃんほげほげ



持ち寄りと

自助精神

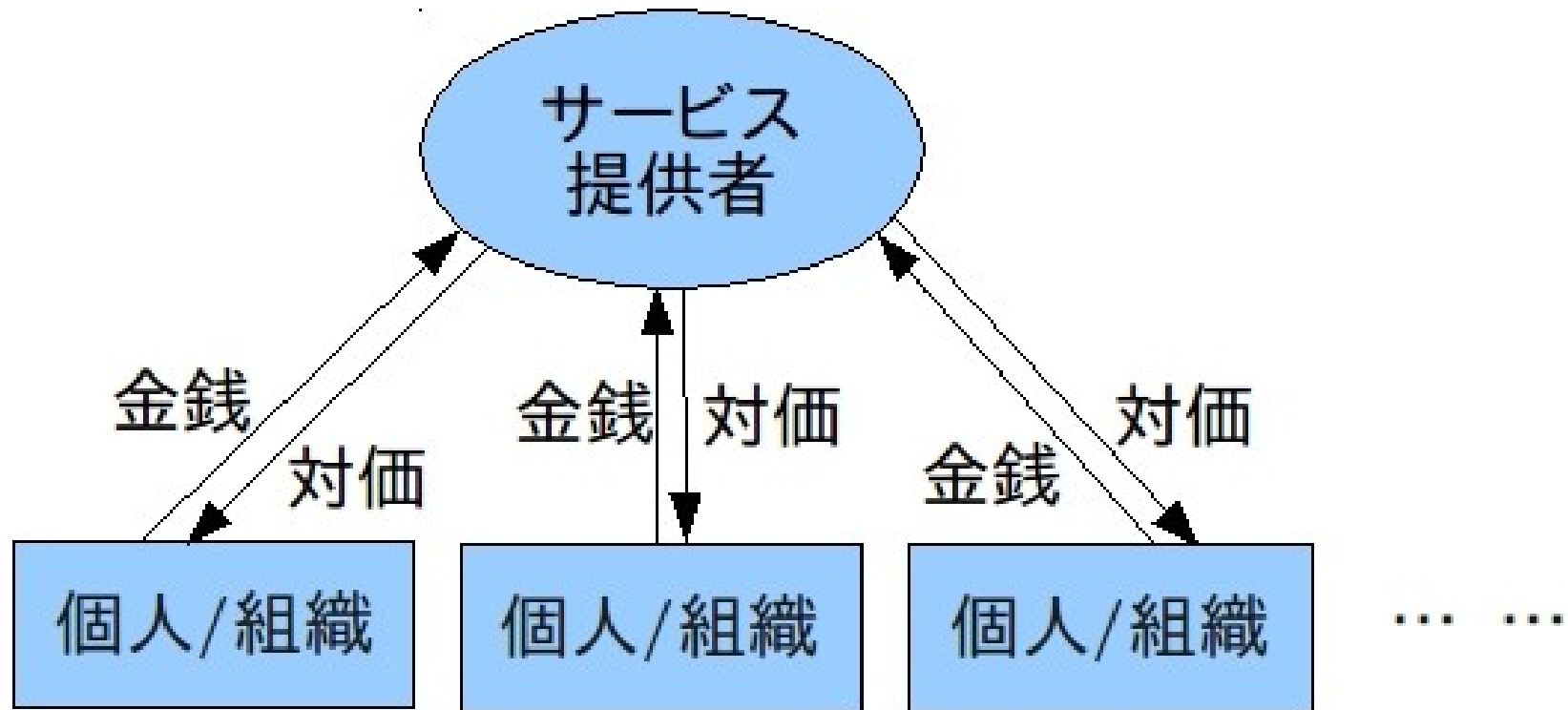
# コミュニティを支える構図



各自が人/モノ/金を持ち寄って運営

持ち寄ったものはそこで消費  
提供者に対価を払うことを目的としない

# 企業のサービスを支える構図



客が金を払って対価(サービスなど)を享受

コミュニティとは構図が異なる

運営者も参加者も

構図の違いを

理解しておきたい

(参加者には伝わりにくい)

# JUNETジンギスカンパーティー(J2) (1989-)



fjでの議論から  
ジンギスカン実演の場として開始  
今でもITコミュニティの交流会として継続

# 「J2スピリット」

自主運営なので

各自進んで

仕事を引き受けるべし

# 「言い出しっぺの法則」

昔のインターネットコミュニティ  
では言い出した人が  
担当する掟があった

さだまさしMLは  
その掟に従い管理人を担当

今にして思えば  
若い頃にこういう習慣を  
身につけておいてよかった

これからの人に  
どう伝えていけばいいかは  
よくわからない

入口では歓迎して、  
あとは自分でやらせる？



粘り強く

続ける

法林さんはなぜ  
燃え尽きないのか

さだまさしML (1989-)

jus (1992-)

Internet Week (2000-)

KOF (2002-)

LLイベント (2003-)

jus研究会JAPAN TOUR (2007-)

TechLION (2011-)

コミュニティやイベントにも  
構築と運用がある

構築は瞬発力  
運用は持久力

各自の適性に応じて  
やれることをやってほしい

継続は

マナーと

闘い

マンネリ防止には  
変化を持たせる

毎年やっているイベントでも

会場を変えるとか

形態を変えるとか

新しい企画を取り入れるとか



軽量プログラミング言語と共に拓く、新たな未来へ

Lightweight Language Future

LLイベントは毎年  
名称を変えている



ミュージシャンの  
アルバム製作と同様

イベントを作品と考え  
良い試合を目指す

コミュニティを

継続するには

# ひとつは新陳代謝

新しい人が入るとか  
トップの交代とか

技術コミュニティの場合は  
対象技術そのものの盛衰が  
あるので難しい面も

# もうひとつは 当事者意識とか帰属意識

コミュニティを盛り上げるのは  
メンバー個々の力

コミュニティの盛り上がりは  
その心意気を持っている  
人数に比例する

Ruby

JANOG

LOCAL

最後に

もうひとつ

エンジニアでなくても  
技術コミュニティへの  
貢献はできる

技術力と貢献力(?)は**無関係**

エンジニアが苦手な  
こともたくさんある

**異業種の経験**も役に立つ

自分にできる貢献を考えて  
実践してほしい



皆さんの力で

LOCALを

盛り上げてください

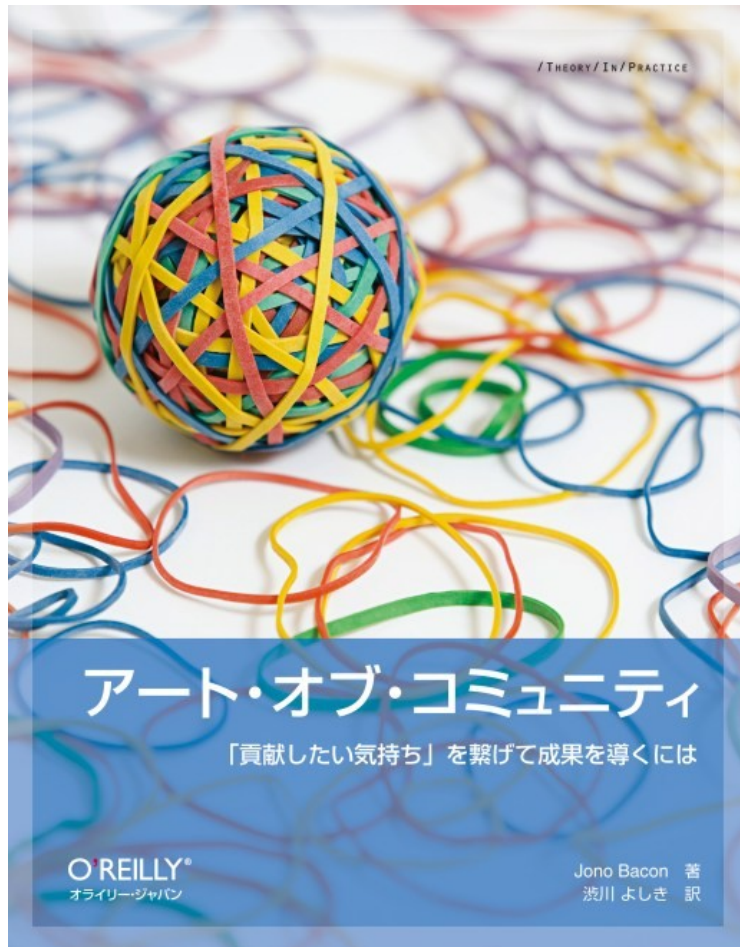
まとめ

# 法林浩之的 ITコミュニティ運営論

自分の活動の振り返り  
その中で気づいたこと

人はアウェイで成長する  
名前や定義は気にしない  
持ち寄りと自助精神  
粘り強く続ける  
当事者意識

# アート・オブ・コミュニティ



John Bacon著  
渋川よしき訳  
オライリー・ジャパン

ITコミュニティの運営  
について書かれた本

# 法林浩之の FIGHTING TALKS



法林浩之の  
**FIGHTING TALKS**  
written by 法林浩之(日本UNIX ユーザ会)

旗揚げ戦  
Departure

日本のIT業界では日々数多くの勉強会やイベントが行われているが、その舞台裏が語られることは少ない。本稿は、自らの半生をITイベント運営に捧げた、IT業界の「闘う男」が、イベントやトークについて語る連載である。

ひとつがTechLIONである。TechLIONはUSP研究所主催のイベントだが、私が頑張って盛り上げている

連載を始めるにあたり

USP MAGAZINEで連載中

# 質<sup>ヒマ</sup>疑応答

# ありがとうございました



ITコミュニティ界の「鉄人」を  
目指してがんばります！